

『今後も安定して水を送るために 大きな水道管を計画更新 PIP工法 + バックアップ管で、断水を最小に』

どう更新する？ — PIP工法で掘削を最小化

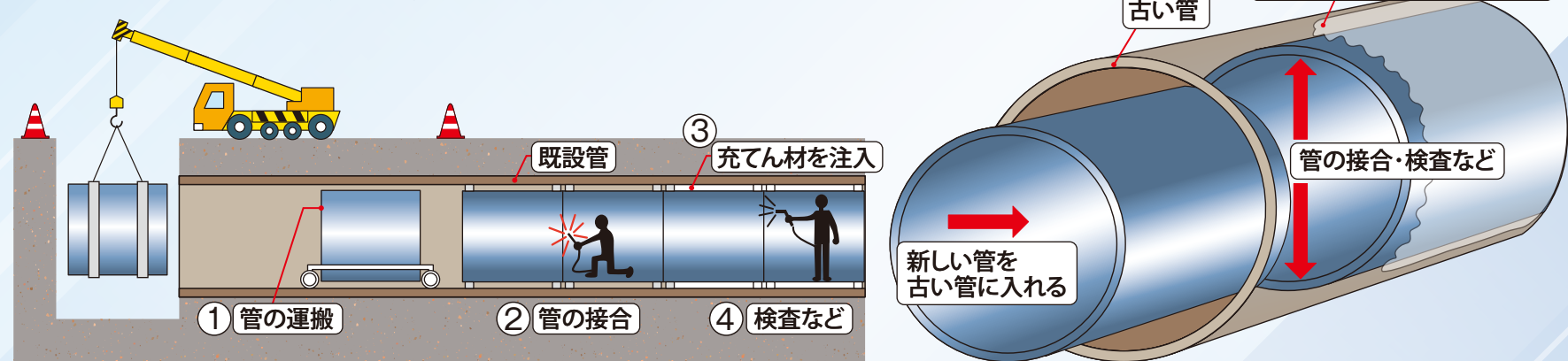
大きな水道管は更新に広いスペースが必要です。都市部では新しい管を入れる場所が限られていることや水需要が減少していることから、既存の管の中に一回り小さい新しい管を通す「パイプ・イン・パイプ（PIP）工法」を使います。

この方法なら、大きく掘り返さずに水道管を新しくできるため、工事による影響や費用を抑えられます。



大きな水道管(直径40cm以上)の工事現場の様子

パイプ・イン・パイプ(PIP)工法

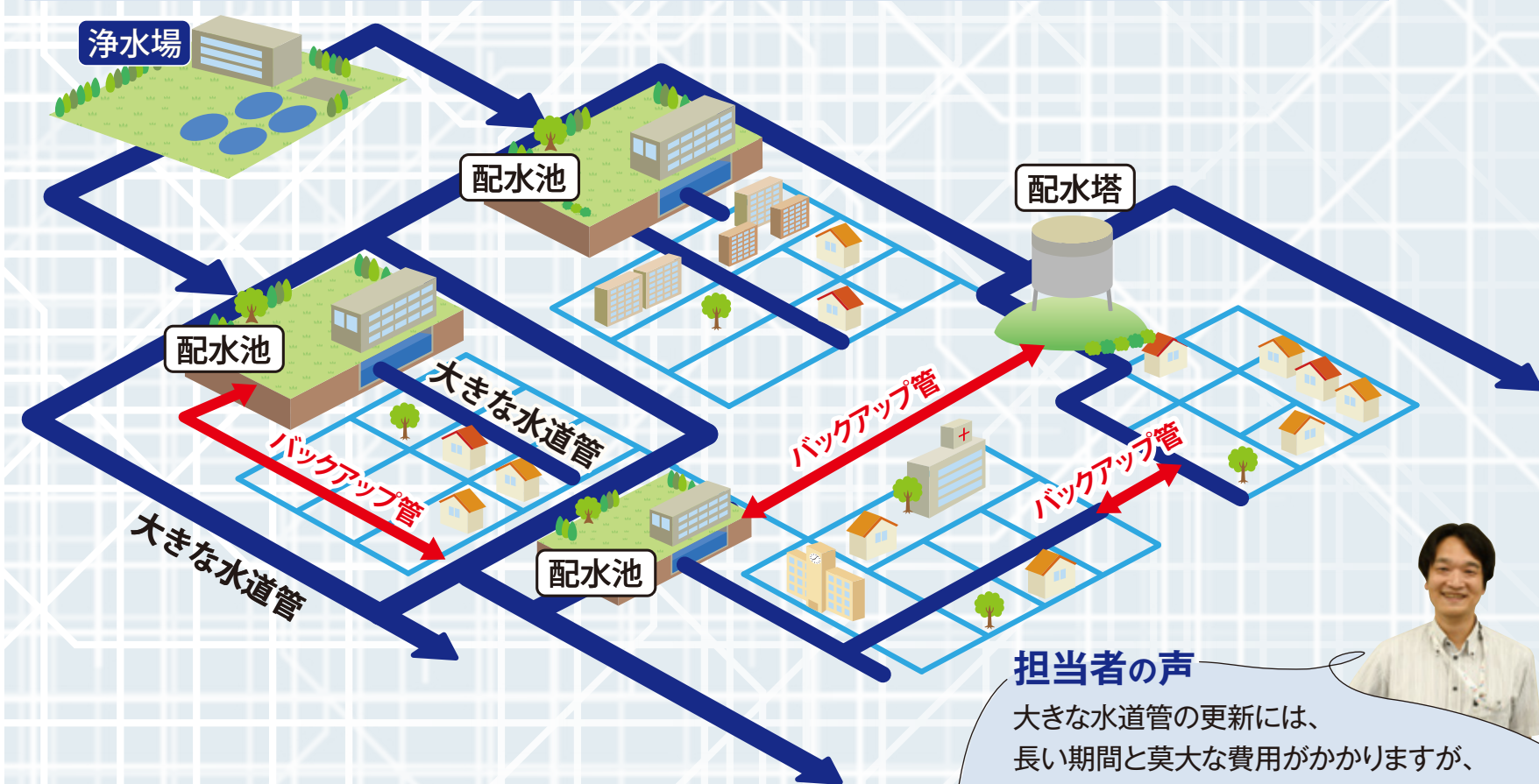


どう止めない？ — バックアップ管で“回す”

PIP工法は工事中に一時的な断水が必要ですが、事前に「バックアップ管」を整備することで、断水を防ぎます。

このバックアップ管は、施設間や配水区域を結ぶ「ネットワーク化」にも活用しています。

事故や災害で1本の管が使えなくなっても、別のルートから水を送ることができます。



担当者の声

大きな水道管の更新には、長い期間と莫大な費用がかかりますが、やらなければいけない仕事です。PIP工法とバックアップ管を活用し、“市民の皆様への影響を極力抑えながら更新する”ことが重要です。

出来ない、ギブアップはない。

漏水に挑む、見えない守り手たち



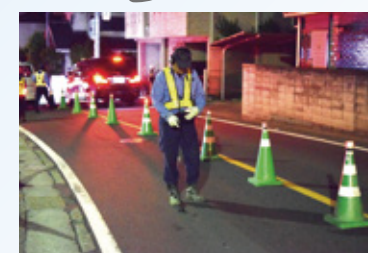
見えないところで起きる漏水に、即応チームが駆けつけます。給水を止めないことを最優先に、初動から復旧まで総合的に対応します。

365日即応体制

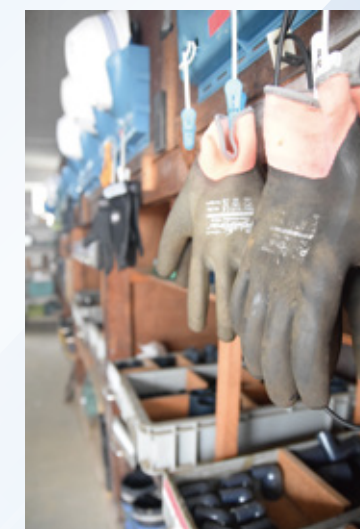
災害時だけでなく、日々の「漏水対応」も、水道を支える重要な業務のひとつ。

川崎市では、3つの拠点に24時間体制で職員が常駐し、通報があればすぐに現場へ向かいます。

初動対応は2名1組で行われ、緊急性が高ければ追加体制で対応。復旧まで迅速かつ正確な判断が求められます。



夜間対応の現場で作業中の職員



拠点に整備された資材と工具

止めないための現地対応

漏水の通報が入り、現場では目視・音・振動などで水漏れ箇所を特定。

せまい道路や複数の管が埋設されたエリアでは調査に時間を要しますが、段取りとチームの連携で無駄を削減。

病院などには給水タンク車も出動し、「水を止めない」体制を維持しています。



漏水を止める様子



管を修理している様子

100名体制で連携

- 上下水道局直営の水道管修理体制
- 中大口径の大きな水道管にも対応できる専門技術
- 市民からの通報に対応



深夜対応も
日常的に



※上下水道お客さまセンター
0120-014-734（年中無休・24時間受付）

水を止めない
それが私たちの
使命です

市民の方の“ありがとう”が
何よりの励みです



漏水修理対応をしている職員



道路と宅地内、漏水修理のちがい

道路上の漏水は、原則上下水道局で修理を行います。宅地内の水道管はお客さまの財産であるため、一部のものを除き、お客さま自身で修理を行っていただくこととなります。



修理範囲について